



大阪市立科学館 展示改装基本計画

概要版

他にない、
みんなが科学を楽しむ
快適空間の構築をめざして

2023年3月

地方独立行政法人 大阪市博物館機構

大阪市立科学館

目次

- 基本構想・基本計画の位置付け 02

1. 基本構想概要(2021年度策定)

- 1-1. はじめに
 - 大阪市立科学館の使命 05
 - めざす姿「スローガン」 06
- 1-2. アウトカム
 - ビジョン 07
 - 展示改装事業のアウトカム(ロジックモデル) 08
 - 展示改装事業の3つの柱 09

2. 展示改装計画(2022年度策定)

- 2-1. 基本的な考え方
 - スローガン 13
- 2-2. 全館構成 14
- 2-3. 各階平面図 16
- 2-4. 主要展示イメージ 21
- 2-5. 施設改装方針 36
- 2-6. V I 計画 40

3. 展示改装検討会

- 3-1. 検討会について
 - はじめに 51
 - 設置目的 51
 - 大阪市立科学館展示改装検討会委員 51
 - 会議の開催 52
 - 大阪市立科学館展示改装検討会委員名簿 53

基本構想・基本計画の位置付け

大阪市立科学館（以下「当館」という。）は、1989年（平成元年）10月7日に大阪市立電気科学館（1937-1989年）の歴史を引き継ぎ中之島の現在地に開館した。その際、未来志向の博物館である科学館が時代に取り残されないことを意図して、5年ごとに部分的な展示改装を計画していた。これに従い、1994年度（平成6年度）に第1次展示改装が、1999年度（平成11年度）に第2次展示改装が実施され、多少遅延があったが2008年度（平成20年度）に第3次展示改装が完了した。

この間、インターネットの急激な普及により多種多様な情報がいつでもどこでも誰でも入手できるようになり、単に最新の科学情報を集約し、発信するだけの科学情報拠点としての科学館の魅力は薄れることとなった。一方で、自宅や学校でできない体験や、実物に触れる場としての科学館のあり方が一層強く求められる傾向が高まった。このような潮流の中で、当館では、第2次展示改装、第3次展示改装において、「本物・実物・生の現象」を展示場実践し、以降、一定の来館者数を維持し今日に及んでいる。また、2013年（平成25年）に将来約10年間にわたって寄与すべき方向と役割を有識者会議により検討し、「大阪市立科学館のあり方提言」にまとめた。そこで、設定された使命が「科学を楽しむ文化の振興」である。

しかし、第3次展示改装以降、大規模な展示改装が実現しないまま、2019年（平成31年）4月1日に運営を指定管理者であった公益財団法人大阪科学振興協会から、新たに大阪市が設置した地方独立行政法人大阪市博物館機構（以下「博物館機構」という。）が引き継ぐこととなった。これにより、指定管理者による運営の最終年度となった2018年度（平成30年度）に第4次展示改装の第一期として、展示場4階の一部を改装し、以降、第4次展示改装については、博物館機構の運営の下で継続することになった。

地方独立行政法人である博物館機構の運営下では、5年間の中期計画の中で事業が進められるが、博物館機構による運営初年度末に新型コロナウイルスの感染が拡大し、以降3年間にわたって様々な制約の中での活動を余儀なくされた。その間、施設内、特に体験型展示における感染拡大防止策が要請され、第4次展示改装の検討も停滞せざるを得なくなった。

一方で、2025年（令和7年）には、大阪・関西万博の開催が決まっており、博物館機構として国内外からの来阪者への寄与を目指す中、未来志向の博物館である科学館の役割も期待されている。

当館では、第3次展示改装から15年近くが経とうとする中で、大阪・関西万博を一つの契機と捉え、万博開催半年前をゴールに定め、展示場全フロアのリニューアルを推進することとした。今後「科学を楽しむ文化の振興」に向けた活動拠点となる展示場をどのような方針で改装していくか、当館において2021年度（令和3年度）にまとめたものが、大阪市立科学館展示改装基本構想であり、本構想を基礎として基本計画を策定した。

1. 基本構想概要

(2021年度策定)

1-1.はじめに

大阪市立科学館の使命

科学を楽しむ文化の振興

大阪市立科学館では、平成25年（2013年）に将来約10年間にわたって寄与すべき方向と役割を有識者会議により検討し、「大阪市立科学館のあり方提言」にまとめた。

そこで、設定された使命が「科学を楽しむ文化の振興」である。これは、「科学を楽しむ文化」を地域、職場、家庭、学校に広げる装置として科学館を位置づけ、感動の伝播をめざすものである（下図）。

この提言を踏まえ、市民の自発的な学習、行動を促すことで、**科学リテラシーの増進**、**未来の科学技術の持続的な推進**を実現するため、展示改装事業を実施する。

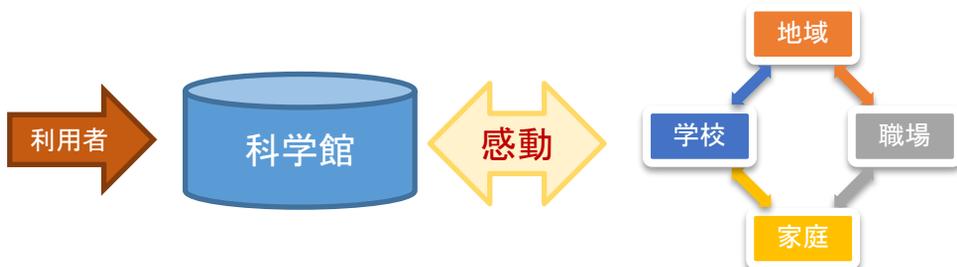
STEP1 科学館活動で感動を



STEP2 科学を楽しむ（感動を膨らませる）



STEP3 科学（感動）の伝播 科学館から家庭・職場へ



めざす姿「スローガン」

他にない、みんなで、科学を楽しむ、 快適空間の構築をめざして

本次展示改装によって、大阪市立科学館がめざす姿を「他にない、みんなで、科学を楽しむ、快適空間の構築」とし、これを展示改装基本構想のスローガンとする。展示改装を具体化するにあたり、一つひとつの行動がこのスローガンの何に影響をするのか、どれほどの寄与をするのか、立ち返りながら事業を進める指針としたい。

このスローガンにおける各文節の意味するところを下図に示す。

他にない

- 家庭・学校では体験できない
- オンラインでは得られない・「交流」「対話」「コミュニケーション」の環境提供
- 他の科学館とは異なる独自性・「大阪」の追求

みんなで

- 大人に訴求できる子どもだましでないデザイン・内容
- 幅広い年齢層が、一人で、家族で、友人と会話できる環境

科学を楽しむ

- 「科学を楽しむ」文化の振興 ※「楽しみ方」>「知識」
- 「本物」「実物」「生の現象」に触れることができる

快適空間の構築

- 長時間の利用に快適な安全・安心・上質な空間
- 高齢者・乳幼児・障がい者・外国人にもやさしい設計
- 共用・便益施設等附帯設備の充実による利用者満足度の向上

1-2.アウトカム

ビジョン

■最終目標

当機構のあるべき姿と進むべき方向性として、2016年12月に大阪市経済戦略局が「大阪市ミュージアムビジョン」を策定した。この中で大阪市の博物館がめざす姿として、「都市のコアとしてのミュージアム ～大阪の知を拓き発信することで、人々が集い賑わう都市を実現し、大阪を担う市民とあゆむミュージアム～」が謳われている。

当館は「宇宙」と「エネルギー」を中心にそれらに関連する様々な科学知識・技術の普及、啓発、研究をテーマに1989年に開館したが、その源流は1937年に日本初のプラネタリウムを設置し、日本初の科学館（サイエンスセンター）といわれた大阪市立電気科学館にあり、その伝統が広く市民に認められている。

本次展示改装においても、当館が有する強みをさらに発揮する基盤を構築し、「大阪市ミュージアムビジョン」に定める「都市のコアとしてのミュージアム」の実現を最終目標とする。

【当館の強み】

i) プラネタリウムの先進性（R4年2月リニューアル）

オリジナル設計による光学式プラネタリウムと、最新の天文シミュレータを搭載する全天周映像システムを融合した最新プラネタリウムとそれを駆使できる専門学芸員の存在。

ii) 電気科学館（1937年開館）を継承する伝統

電気科学館として52年間、大阪市立科学館として32年間にわたって市民に親しまれ、親子4世代に宇宙や科学技術に触れる場として認知されている。

iii) 「本物」「実物」「生の現象」をモチーフとする独自性

ギミック、バーチャルに頼らず本物を中核とする展示の独自性。

展示改装事業のアウトカム（ロジックモデル）

第一階層（ビジョン）	<p>■戦略目標1 他にない「科学を楽しむ文化の振興」を特徴とする独自の価値増進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学史的側面からの「大阪」を追求した資料公開 →①大阪の知を拓く ・企画展示の充実によるアップトゥデートな情報提供 ・正確な科学情報による科学リテラシーの増進（学芸員の充実） →②大阪を元気に ・企画フロアを活用したワークショップ等への市民参画 →③学びと活動の拠点へ 		<p>■戦略目標2 SDGs未来都市のコア機能の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な科学情報による科学リテラシーの増進（再掲） ・生涯学習の機会拡大 ・エネルギー、気候変動の啓発 →④質の高い科学教育拠点 ・特別企画展の開催 →⑤大阪・関西万博との連動 			
	<p>最終目標：都市のコアとしてのミュージアム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国2位（R元年度）の動員を誇るプラネタリウムの先進性 ・電気科学館（1937年開館）を継承する科学館の伝統 ※電気的原理と応用 ・「本物」「実物」「生の現象」をモチーフとする独自性 					
第二階層（戦略）	戦略1	戦略2	戦略3	戦略4	戦略5	
	①科学史の中の大坂をアピール	②④⑤特別・企画展の充実	②④展示場の充実	③ワークショップ等コミュニケーション環境の充実	③④利用者サービスの向上を図るための施設の改修・整備	
第三階層（戦術）	戦術1 1	戦術2 1	戦術3 1	戦術4 1	戦術5 1	戦術5 2
	<p>歴史的資料（文献、機器）、レプリカの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪に関連する人物の調査・研究 ・資料の展示公開 ・オンラインでの情報発信 	<p>特別・企画展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別・企画展示スペースの拡充 	<p>展示場のリニューアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物資料の充実 ・現象展示の充実 ・ハンズオン展示の見直し（ポストコロナ） ・老朽展示の改修・廃棄 	<p>企画フロアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの開催 ・セルフ学習スペースの新設 ・ボランティアとの協働事業 	<p>老朽施設・設備の改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エスカレータの更新 ・展示場トイレの改修 ・乳幼児施設の充実（授乳室・おむつ替えベッドなど） ・飲食スペースのあり方検討 ・入館者動線の見直し（1F） 	<p>安全・安心・快適な来館者設備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児施設の充実（授乳室・おむつ替えベッドなど） ・飲食スペースのあり方検討 ・ミュージアムショップの拡充 ・チケット発券システムの見直し
実施内容（構想）	<p>・大阪の科学史コーナーの拡充（4F）</p> <p>・サイエンスタイムトンネルの充実（4F）</p> <p>※見てもらえる仕掛けづくり</p> <p>※展示資料の見直し</p>	<p>・1F展示場への特別企画展スペース新設</p> <p>・特別展（別料金）</p> <p>・企画展の開催（展示場連動）</p> <p>※収蔵品の公開</p>	<p>・発電（関電）コーナーの発展的移設（4F・2F）</p> <p>※基礎科学（電磁気学）・ハンズオンとの連携</p> <p>※見てもらえる仕掛けづくり</p>	<p>・特別企画展示スペースとの共用（1F）</p> <p>・ボランティアによるワークショップの開催</p> <p>・ティンカリングの導入</p>	<p>・トイレの改修</p> <p>・エスカレータの更新</p> <p>・床面・壁面・階段室のリフレッシュ</p> <p>・正面玄関自動ドアの更新</p> <p>・サインの統一デザイン</p>	<p>・チケット券売システムの更新</p> <p>・ミュージアムショップの移設拡充</p> <p>・授乳室の新設</p> <p>・トイレの改修（再掲）</p> <p>・防犯カメラの設置</p>

展示改装事業の3つの柱



2. 展示改装計画

(2022年度策定)

2-1. 基本的な考え方

基本構想で掲げたスローガンを継承し、基本計画ではより具体的に実現に向けた方法を検討した。

スローガン

他にない、みんなで、科学を楽しむ、 快適空間の構築をめざして

他にない

- 4F「大阪の科学」展示で、大阪と科学のかかわりを広くアピールし、未来に継承する。
- 3F「身近に化学」で、他の科学館では珍しい化学や物質に特化した展示を展開。目に見えない原子・分子や化学結合を意識できる場とする。
- 2F「みんなでたのしむサイエンス！」では一つの物理概念を背景とする複数の実験型展示“群展示”を展開。楽しみながら共通性や物理概念に気づく場とする。
- 1F「わくわくサイエンス」では、オンラインでは得られない「交流」「対話」の環境を提供する。

みんなで

- 展示アイテム・解説内容は子どもに特化したものではなく、大人を対象としながらも子ども含めた幅広い年齢層が楽しめる内容とデザインとする。
- 1F「わくわくサイエンス」は、サイエンスガイド・友の会等の科学館で活動する市民が、活躍の場を広げられるように整備する。

科学を楽しむ

- 2-4Fの常設展示では、「本物」「実物」「生の現象」にこだわった展示アイテムを展開し、科学的視点で身の回りの現象やモノを観察する多様な楽しみに気づく環境を提供する。
- 1F「わくわくサイエンス」では、科学館スタッフ等とのコミュニケーション環境を整備し、スタッフ等との対話やワークショップなどをおとした能動的な取り組みの機会を提供する。

快適空間の構築

- 社会的包摂を意識し、誰もが自分の興味関心に合わせて楽しめるように工夫する。
- 展示室の各所に休憩用のベンチを設けるなど、疲れずに展示を楽しめる空間を実現する。
- オンラインでのチケット販売の充実、わかりやすい案内サインなど施設利用のストレスレスを目指す。

2-2. 全館構成

大阪市立科学館展示改装検討会での意見を踏まえ、以下の範囲について計画した。

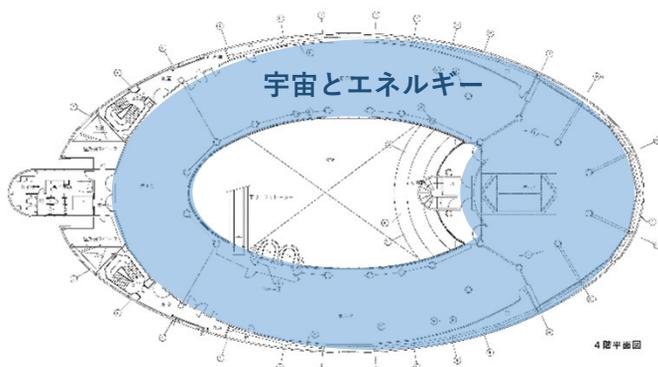
4階 宇宙とエネルギー

大阪市立科学館全体のテーマである「宇宙とエネルギー」を印象づけるため、人類が理解している宇宙の姿と、理解するための物理概念・原理を、その歴史的段階（現在の科学的な理解は人類の努力の積み重ねとして形成されてきた）を背景に知ってもらう。また、最も身近なエネルギーとして電気エネルギーの利用についての理解を促す。

さらに、大阪に設置された科学館として、大阪と科学のかかわりを広くアピールし未来に継承する。

【大テーマ構成】

1. 宇宙をさぐる
2. 大阪の科学
3. サイエンスタイムトンネル

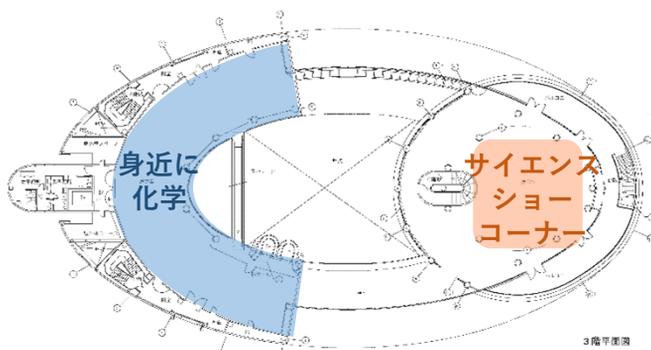


3階 身近に化学・サイエンスショーコーナー

第一に、身近な世界はさまざまな物質で溢れていることを印象的な実物標本で紹介し、「物質」へ関心を高める。次に、多種・多様な物質の違いが、周期表に示される「わずか」100あまりの元素からできる原子や分子の組み合わせ（分子構造）と結びつき方（化学結合）によることを伝え、身近な世界を原子や分子を意識して見つめる楽しみへと誘う。

【大テーマ構成】

1. 鉱物・結晶
2. 金属
3. ガラス・セラミックス・液晶
4. 元素・分子原子の発見
5. 繊維・プラスチック
6. 色の化学
7. 大阪の工芸と化学
8. 環境に配慮した新技術・新材料
9. サイエンスショーコーナー

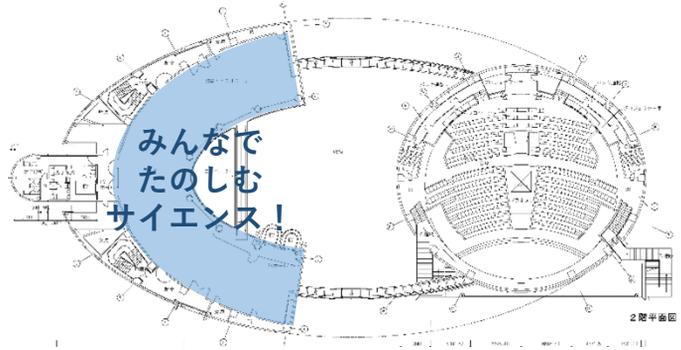


2階 みんなでたのしむサイエンス！

幅広い年齢層が、前提となる知識や経験によることなく、理屈抜きに科学的に整理された現象を楽しみ、言葉（理屈）ではなく体験（感覚）として「ああ、そうか！」という気づきへと誘う。

【大テーマ構成】

1. たまごころがる
2. かがみにうつる
3. かぜがふく
4. おとがなる
5. じしゃくであそぶ

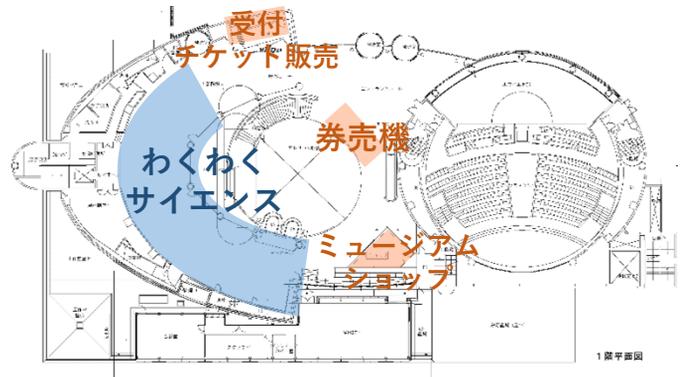


1階 わくわくサイエンス・エントランスホール

日進月歩の科学技術・科学的知見に対して、利用者の関心に臨機応変に応える情報提供の環境を整備する。さらに、科学をテーマにしたコミュニケーションにより来館者の好奇心を膨らませるフロアを目指す。

【構成】

1. 企画コーナー
「わくわくサイエンス」
2. ミュージアムショップ
3. 受付・チケット販売

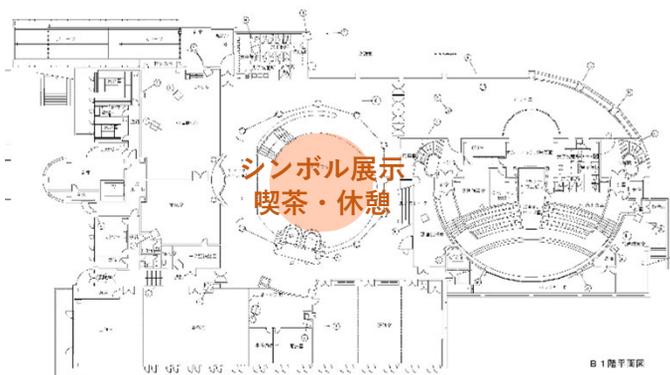


B1階 アトリウム

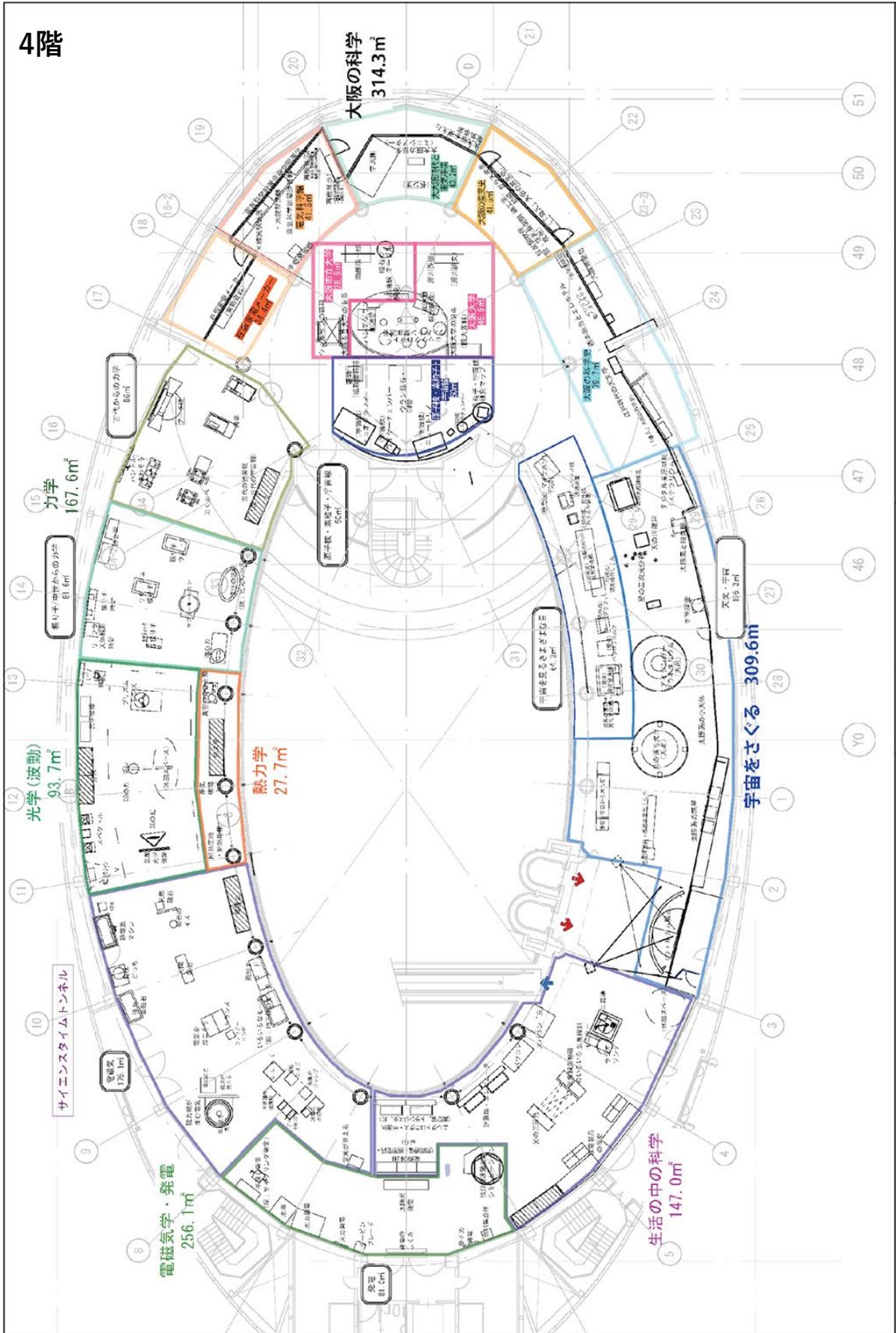
プラネタリウム「カールツァイスII型プラネタリウム」をシンボル展示として中央に配置した休憩スペース。プラネタリウム投影・研修室でのイベント開始時刻までの待機・休憩、団体観覧者の集合場所としての機能を持たせる。

【構成】

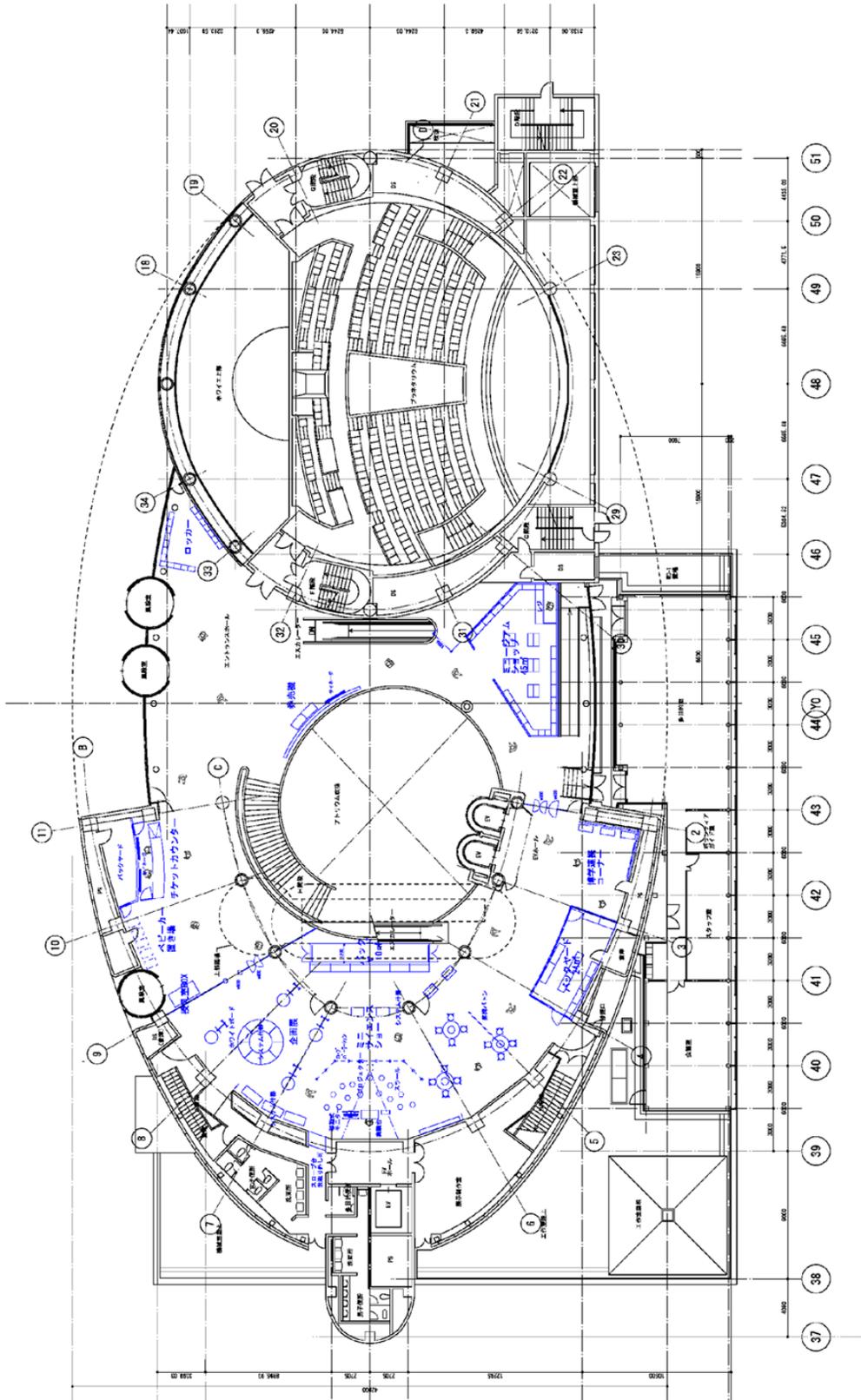
1. シンボル展示
2. 喫茶・休憩コーナー



2-3. 各階平面図



1階



2-4. 主要展示イメージ

各階展示場の現段階での展示イメージを示す。詳細については実施段階で設計する。

4階

【フロアテーマ】
宇宙とエネルギー

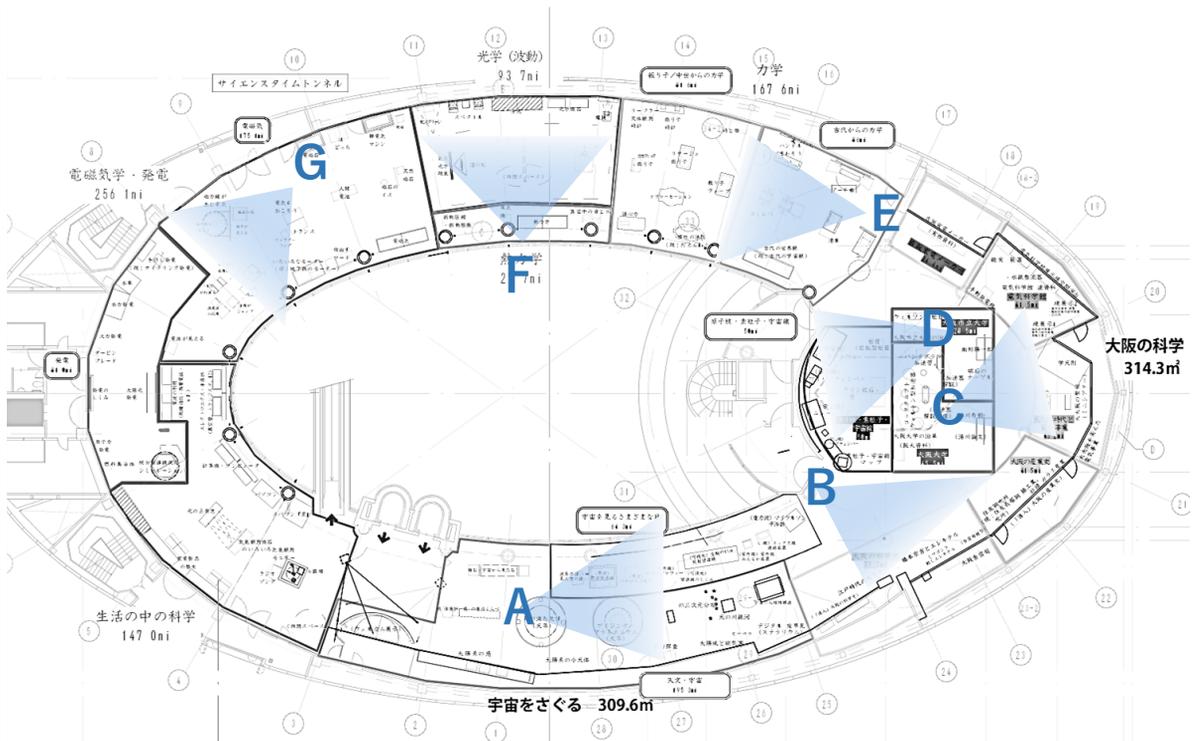
【目的】

大阪市立科学館全体のテーマである「宇宙とエネルギー」を印象づけるため、人類が理解している宇宙の姿と、理解するための物理概念・原理を、その歴史的段階（現在の科学的な理解は人類の努力の積み重ねとして形成されてきた）を背景に知ってもらう。また、最も身近なエネルギーとして電気エネルギーの利用についての理解を促す。

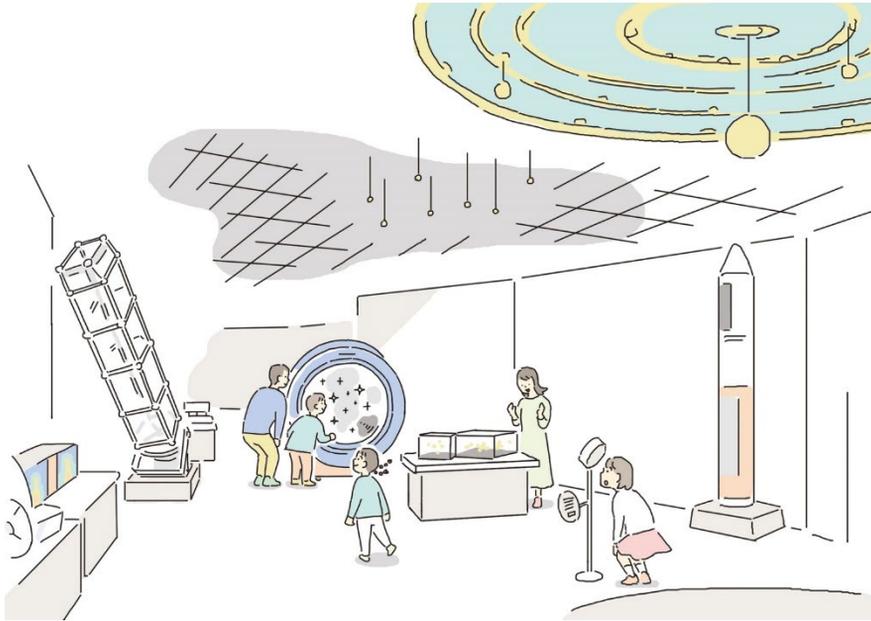
さらに、大阪に設置された科学館として、大阪と科学のかかわりを広くアピールし未来に継承する。

【手法】

「A宇宙をさぐる」「B大阪の科学」「Cサイエンスタイムトンネル」の3コーナーに分類し、歴史的背景については実物資料を、物理現象の体験については実験的に生の現象を確認できる展示装置を中心に、現象そのものや物理概念の確認を楽しむように構成する。



4階

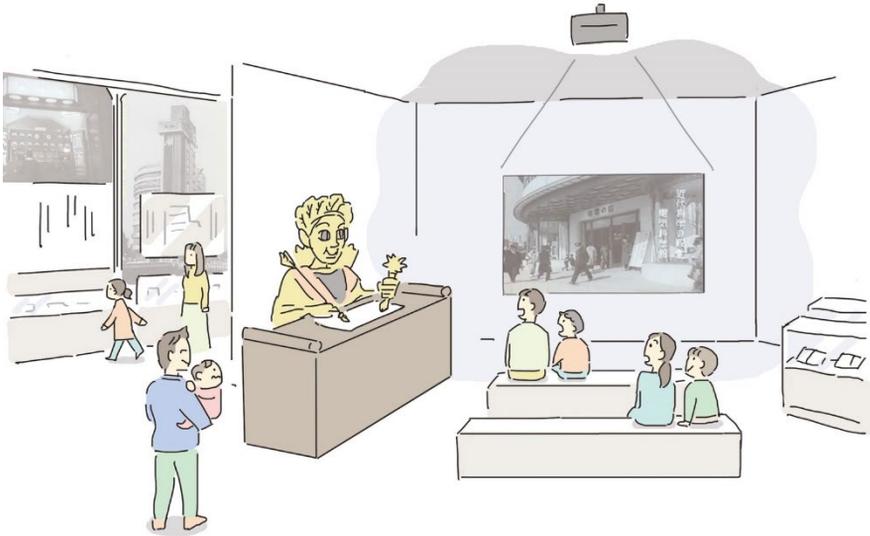


A 宇宙をさぐる



B 大阪の科学：大阪の科学の歴史

4階



C 大阪の科学：大大阪時代と電気事業



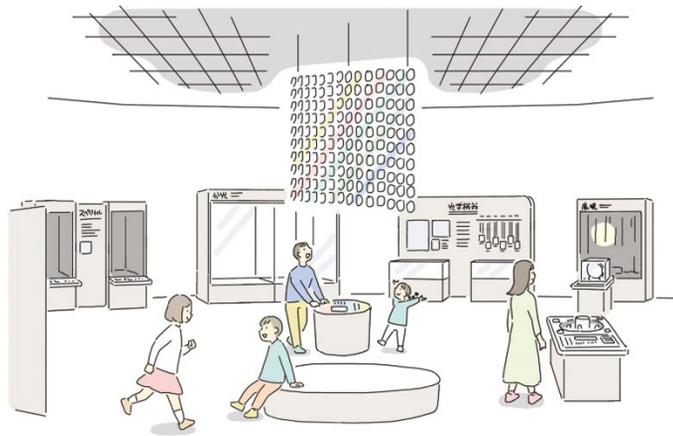
D 原子核・素粒子・宇宙線

写真提供 東京大学宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設

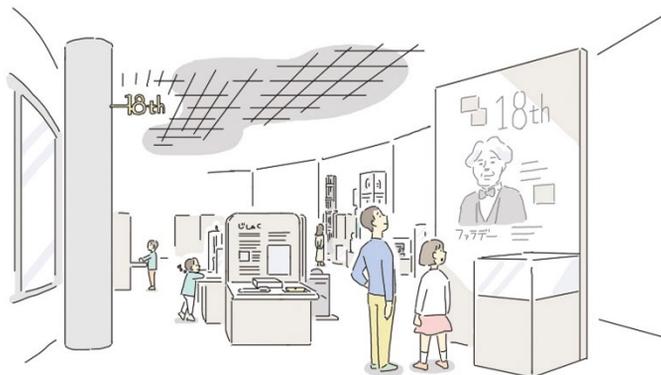
4階



Eサイエンスタイトンネル：力学



Fサイエンスタイトンネル：光学（波動）



Gサイエンスタイトンネル：電磁気学

3階

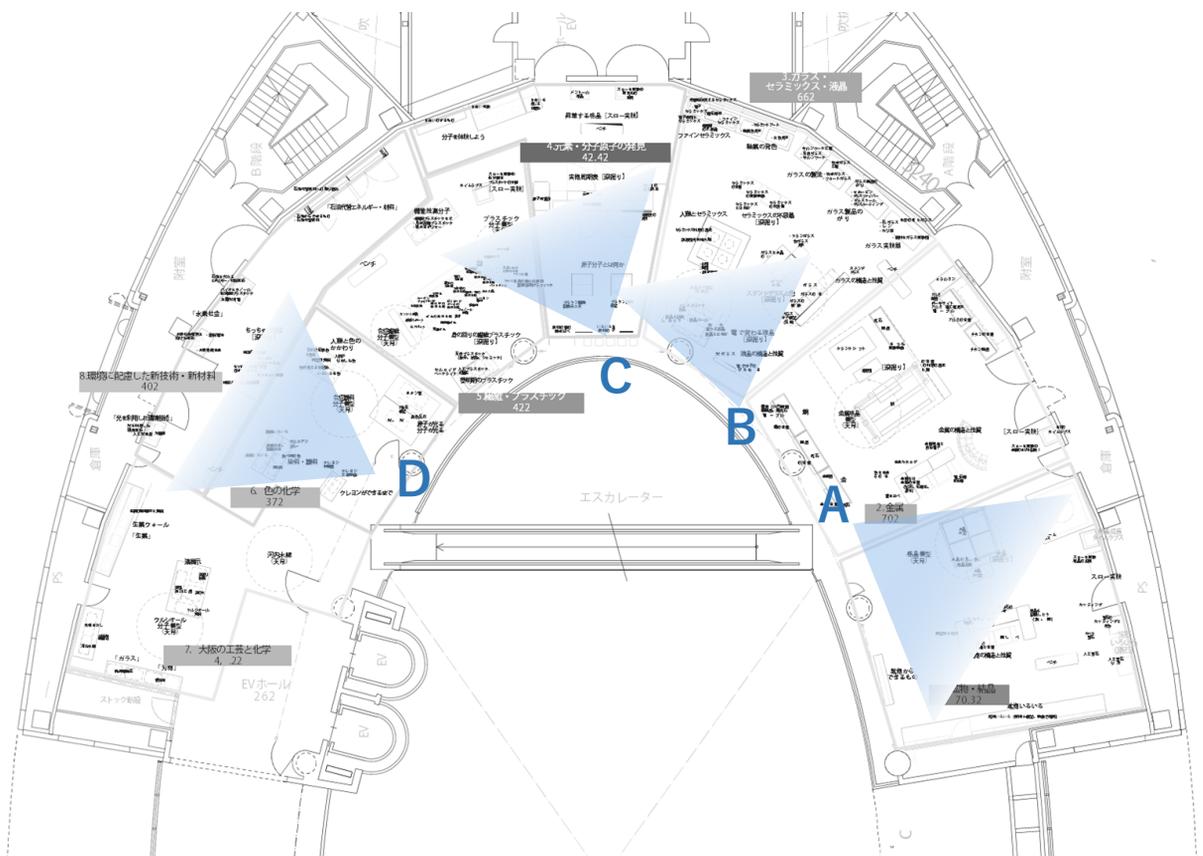
【フロアテーマ】
身近に化学

【目的】

第一に、身近な世界はさまざまな物質で溢れていることを印象的な実物標本で紹介し、「物質」へ関心を高める。次に、多種・多様な物質の違いが、周期表に示される「わずか」100あまりの元素からできる原子や分子の組み合わせ（分子構造）と結びつき方（化学結合）によることを伝え、身近な世界を原子や分子を意識して見つめる楽しみへと誘う。

【手法】

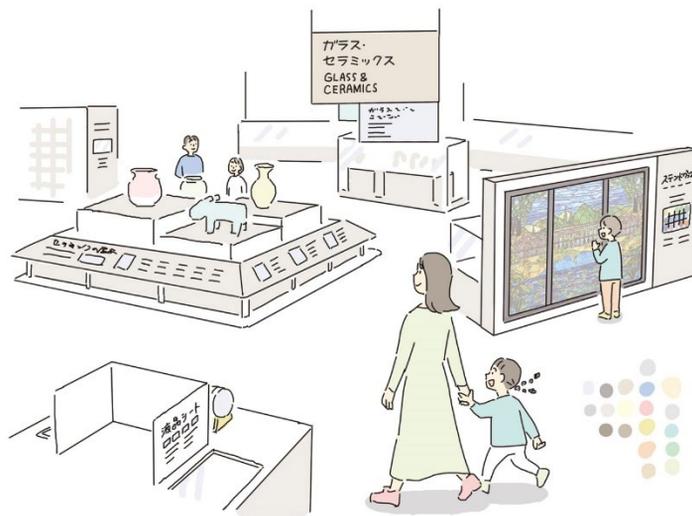
身近な物質を「鉱物」、「金属」、「ガラス」、「プラスチック」等に大きく分類し、それぞれ印象的な実物資料をモチーフとして、それらの特徴的な性質とその原因を「分子構造」、「化学結合」の視点で示す。特に色彩の美しい物や、現在や未来の生活を豊かにする新素材の実物展示を紹介することで、見学者の興味喚起を狙う。



3階

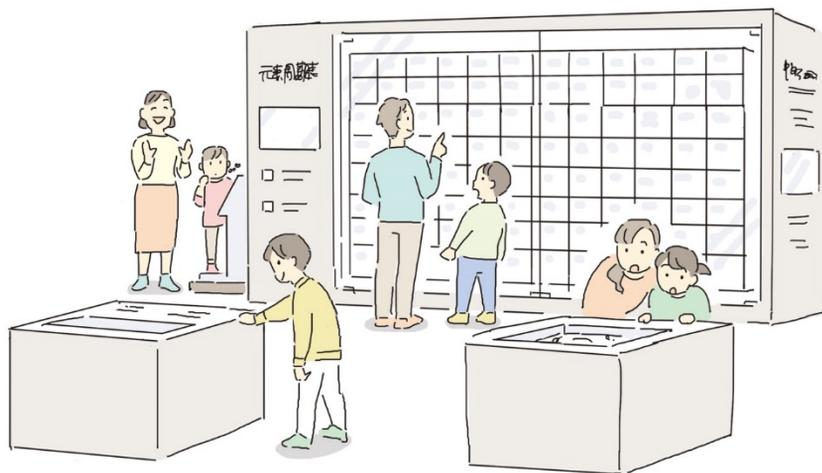


A 鉱物・結晶



B ガラス・セラミックス

3階



C 元素・分子原子



D 環境に配慮した新技術・新材料

2階

【フロアテーマ】

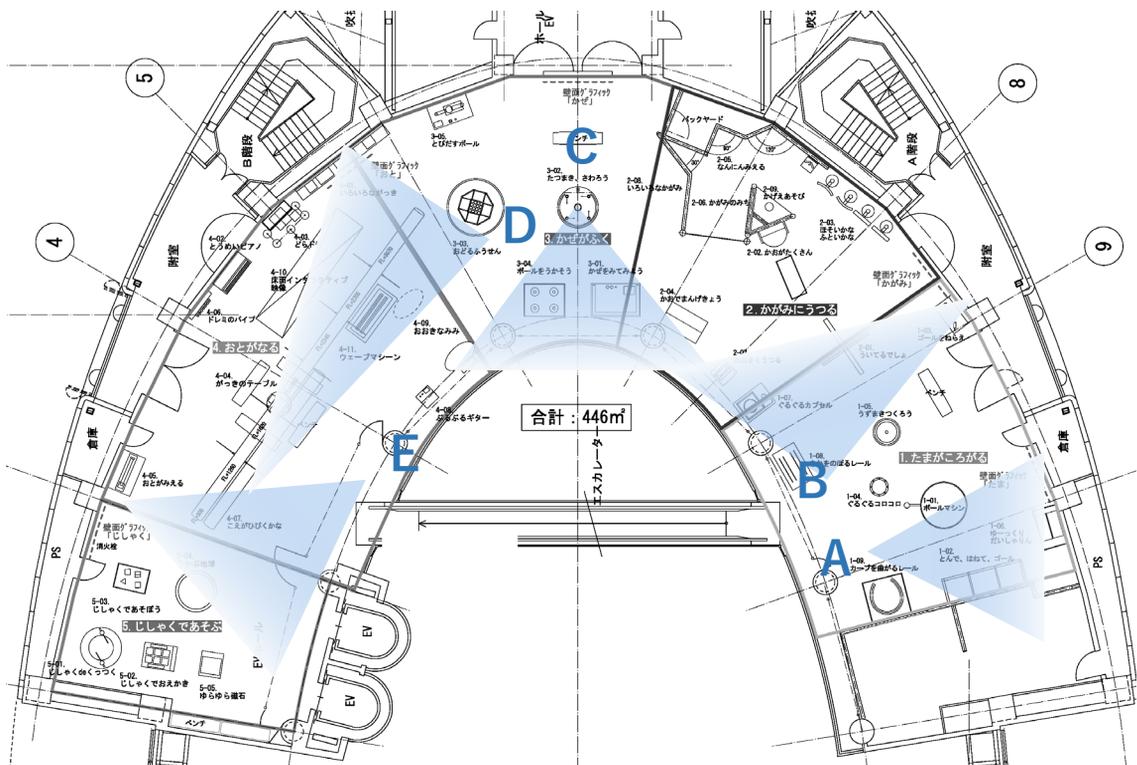
みんなで、たのしむ サイエンス！

【目的】

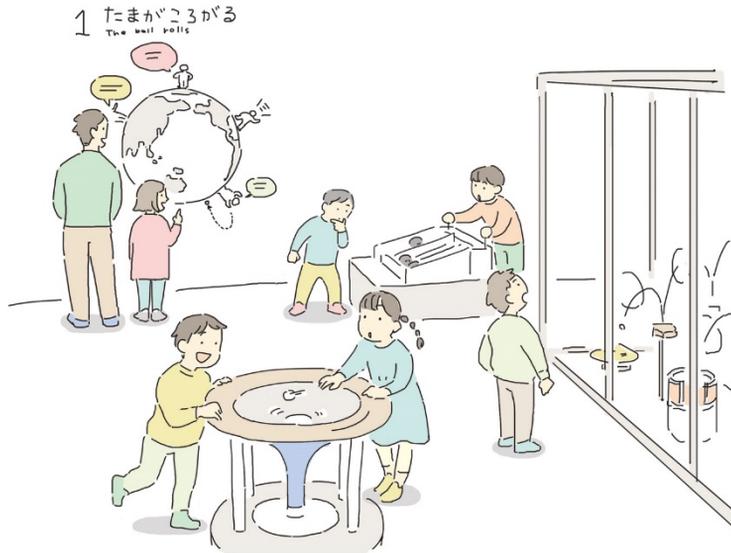
幅広い年齢層が、前提となる知識や経験によることなく、理屈抜きに科学的に整理された現象を楽しみ、言葉（理屈）ではなく体験（感覚）として「ああ、そうか！」という気づきへと誘う。

【手法】

誰もが楽しめるフロアとするため、基本的に「面白い」と感じられる展示装置を集める。その上で、玩具や身近に見られる現象をモチーフとし、一つの物理概念を背景とする複数の実験型展示を展開することで、さまざまな形態の現象に触れながら、背景にある共通性・物理概念に気づけるグループ（群）展示を工夫する。また、それらの物理概念が現れる自然現象や最先端の科学技術との関連（実社会とのつながり）に気づけるようにする。（「地上の運動の根本に重力がある」といった気づき）



2階



A たまごころがる

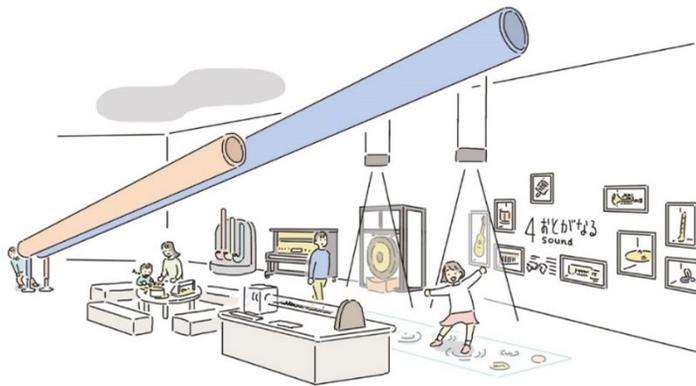


B かがみにうつる

2階



C かぜがふく



D おとがなる



E じしゃくであそぶ

1階

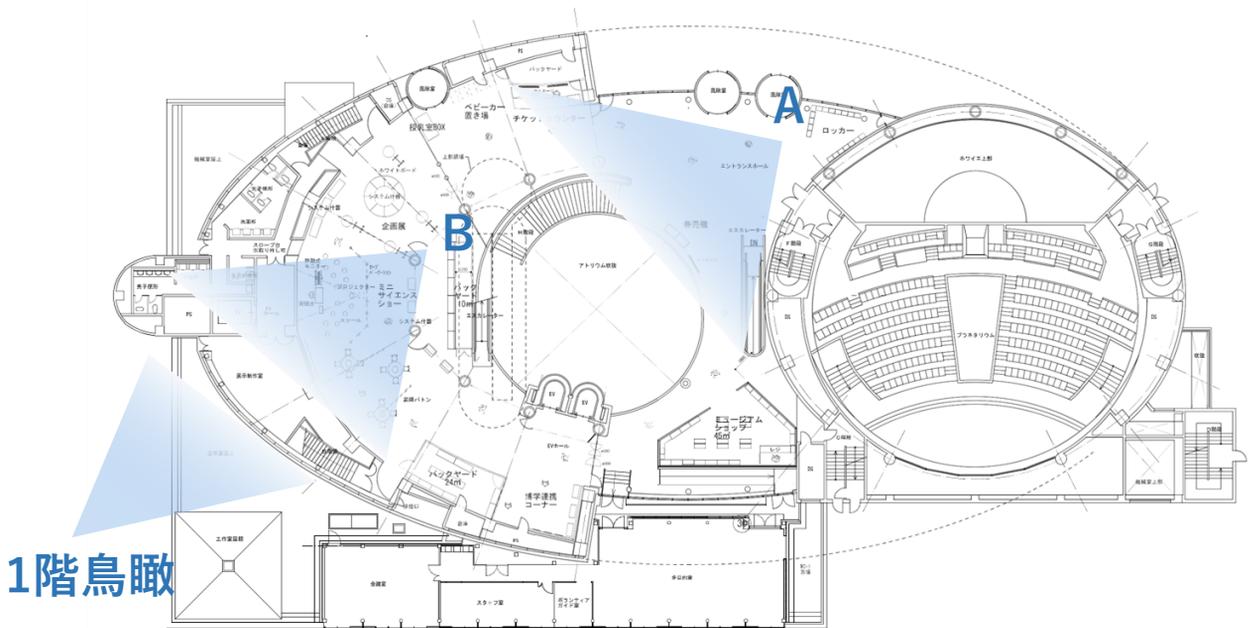
【フロアテーマ】
わくわくサイエンス

【目的】

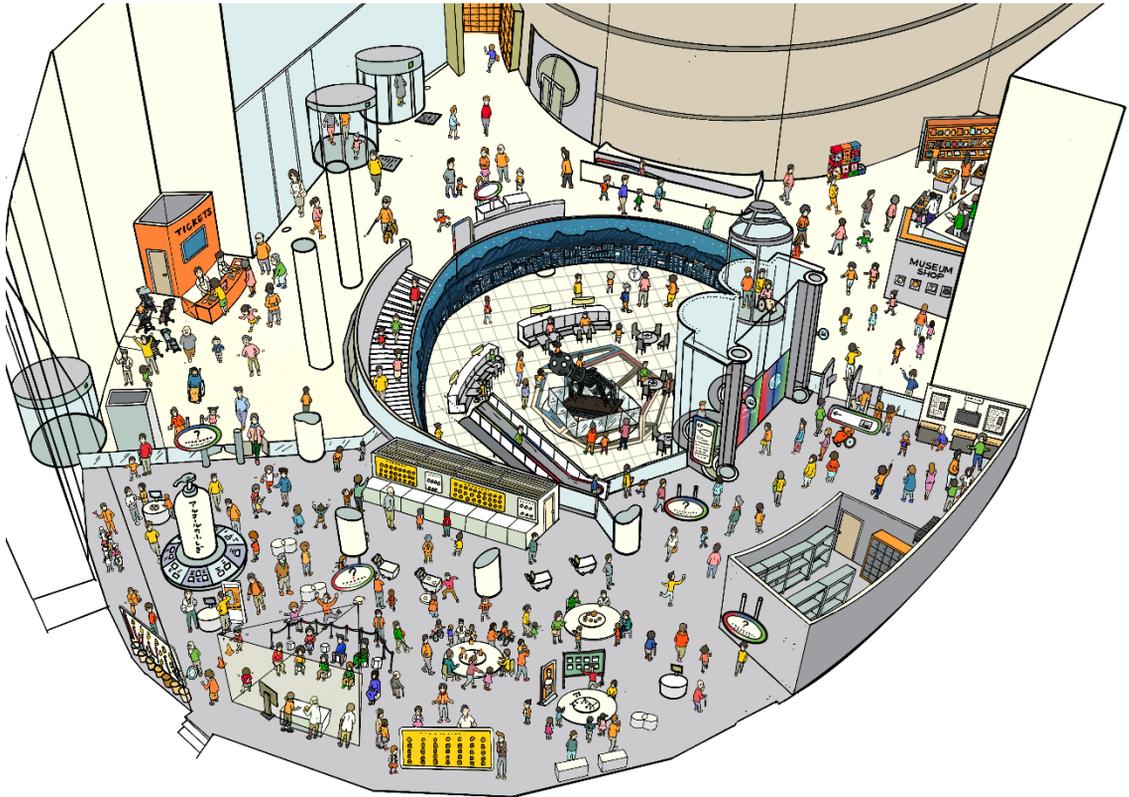
日進月歩の科学技術、科学的知見に対して、利用者の関心に臨機応変に応える情報提供の環境を整備する。また、科学をテーマにしたコミュニケーションにより来館者の好奇心を膨らませるフロアを目指す。

【手法】

小・中規模（300㎡程度）の企画展示が可能なフリーレイアウトスペースを確保し、企画展示を開催していない時期にはワークショップ、ミニ講座、ミニ・サイエンスショーなど学芸員やボランティア等の活動の舞台とし、来館者との積極的なコミュニケーションを図る。



1階



1F鳥瞰イメージ

1階



A エントランス



B ミニ・サイエンスショー

B1階

【フロアテーマ】

アトリウム

(シンボル展示 喫茶・休憩コーナー)

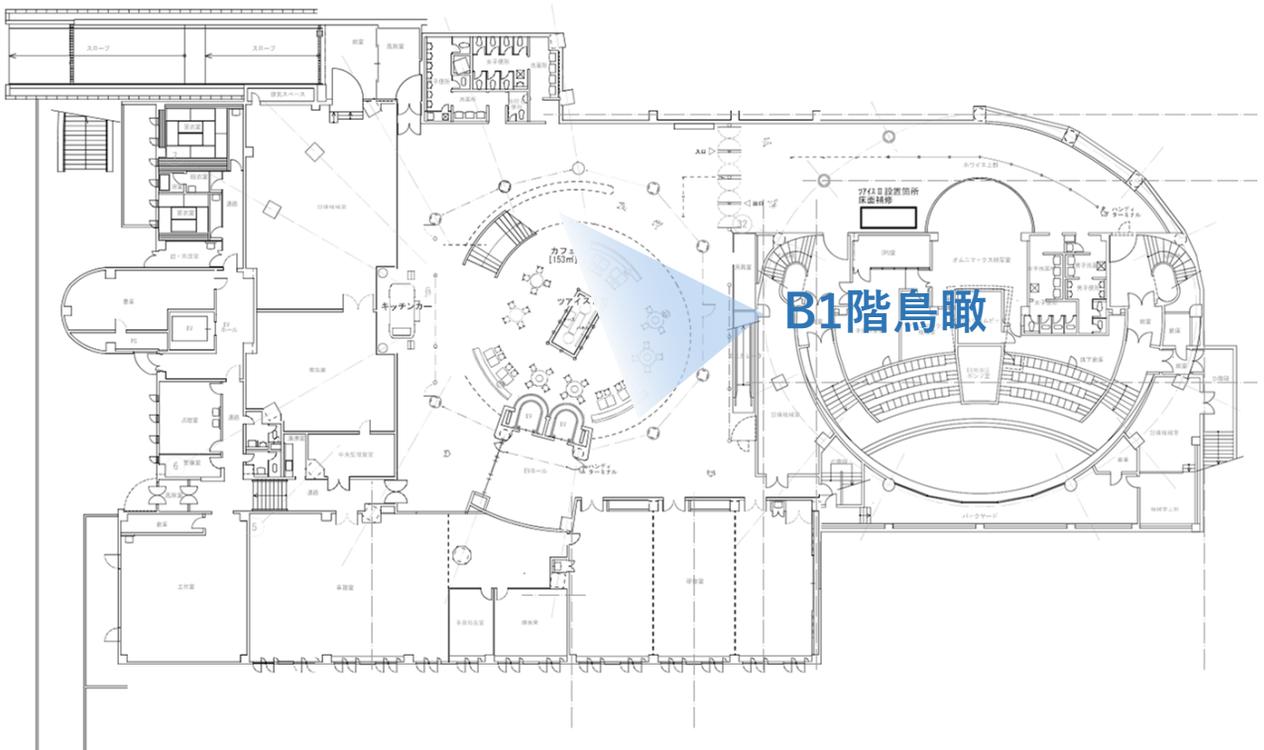
【目的】

プラネタリウム「カールツアイスⅡ型プラネタリウム」をシンボル展示として中央に配置した休憩スペース。プラネタリウム投影・研修室でのイベント開始時刻までの待機・休憩、団体観覧者の集合場所としての機能を持たせる。

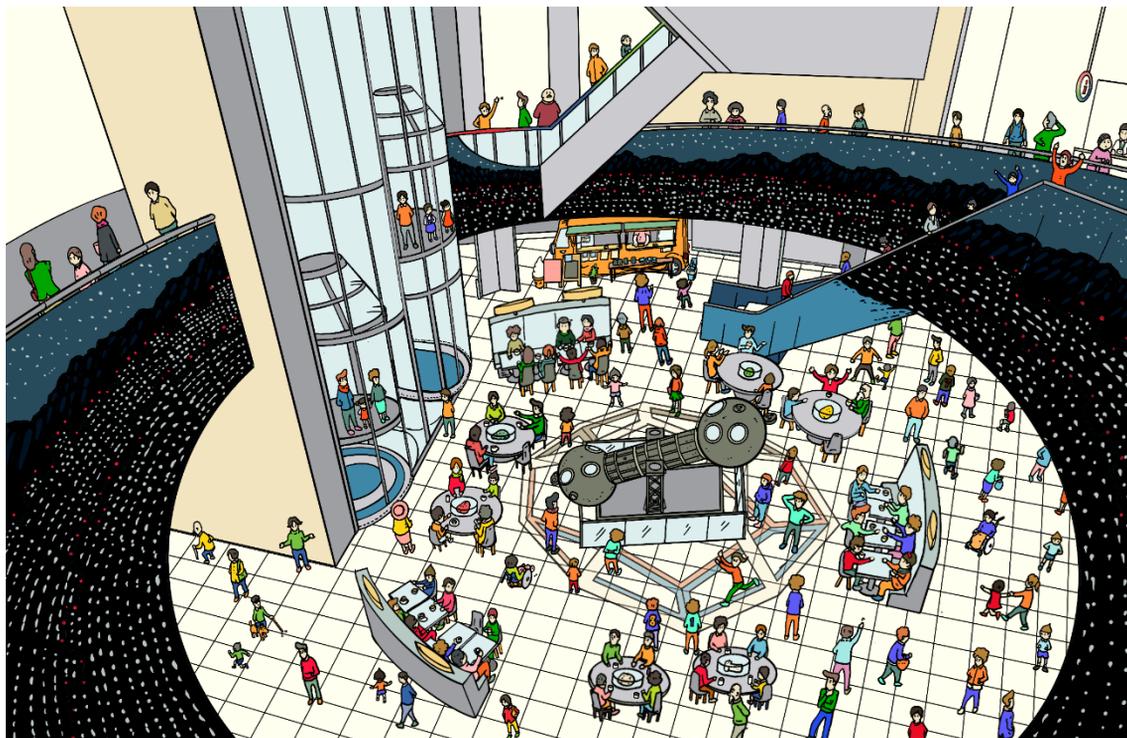
あわせて、大阪市立科学館のウェイティング空間としてわくわく感を誘う。

【構成・要素】

- ・飲料を中心とした喫茶コーナー
- ・シンボル展示：カールツアイスⅡ型プラネタリウム



B1階



B1階鳥瞰イメージ

2-5. 施設改装方針

チケットイングと動線

【目的】来館者動線を単純化するため、チケット販売・展示入口を1階にする。チケット販売を券売機・オンライン・対面販売と多角化することで、受付カウンター（チケット販売所）前の混雑を緩和し、利用者の負担を減らす。

また、展示場入口の先に企画展エリアを設けることで、来館者が分散し、エレベーター前の混雑が緩和されることをねらう。

【構成】受付カウンター・券売機・オンラインチケット販売システム・チケットゲートを総合的に検討する。

ミュージアムショップ

【目的】プラネタリウム、展示、サイエンスショー等での感動を関連グッズ等の形あるものとして持ち帰り、思い出（体験）の定着や家庭等での取り組みにつなげる。

【構成】科学館（大阪市立科学館）ならではのグッズ販売を基本とする。

カフェ・シンボル展示

【目的】プラネタリウム投影・研修室でのイベント開始時刻までの待機、休憩、団体観覧者の集合場所を確保する。

【構成】飲料を中心とした喫茶コーナーを設ける。中央にシンボル展示として、東洋初のプラネタリウムであるカールツァイスⅡ型投影機を展示する。

授乳施設

【目的】現在は救護室と兼用である授乳室を、授乳専用のスペースとして設置する。

【構成】移動式BOX型の授乳施設など、簡易で使いやすいものとする。

3階サイエンスショー

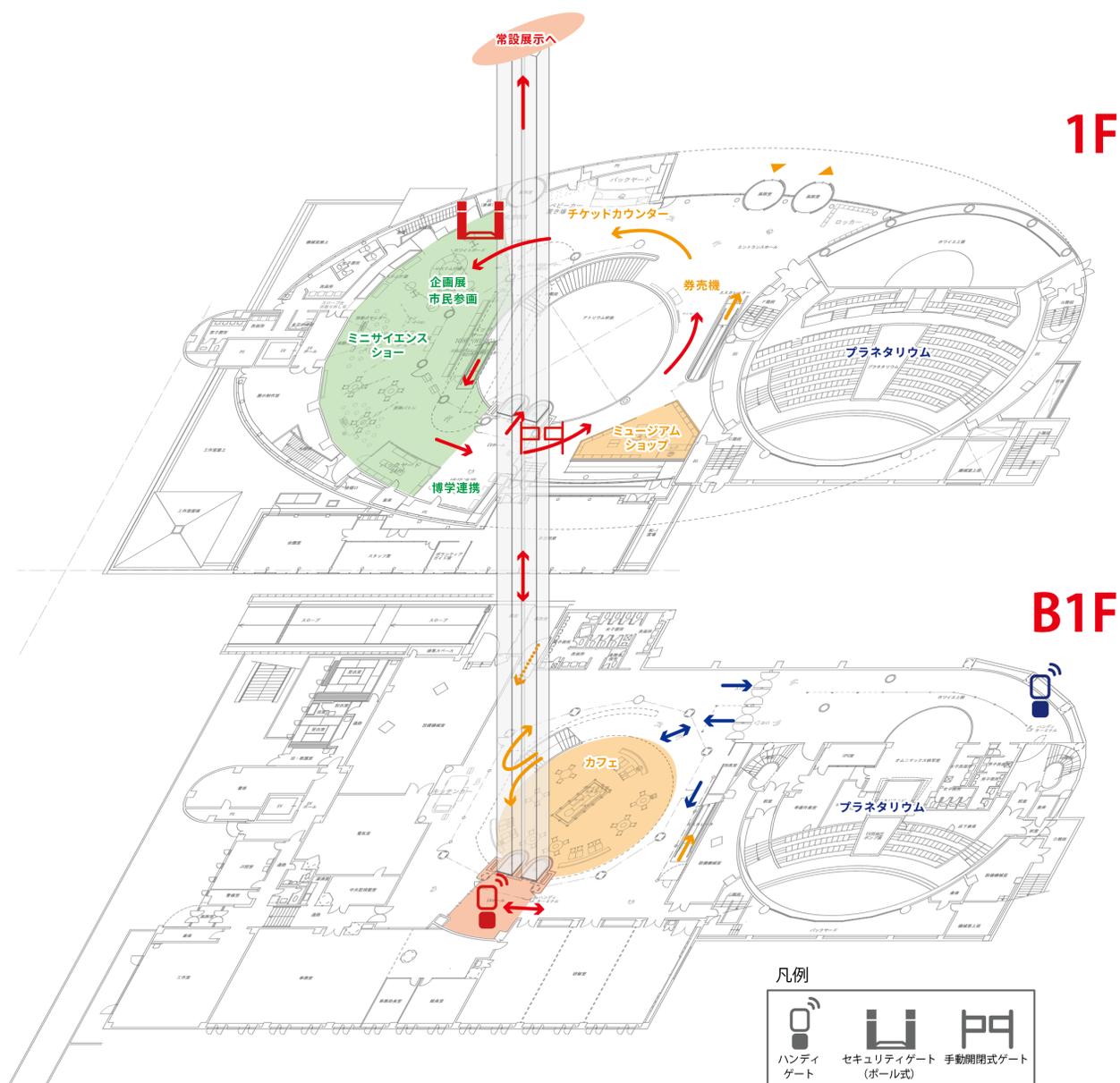
【目的】ステージ周りの死角をなくし、視認しやすい観覧席をつくる。また、現状よりも多くの席数を確保し、より多くの来館者にショーを楽しんでもらえるようにする。

【構成】座席数を92席から100席へ増やす。床用コンセント、簡易排煙設備を設ける。

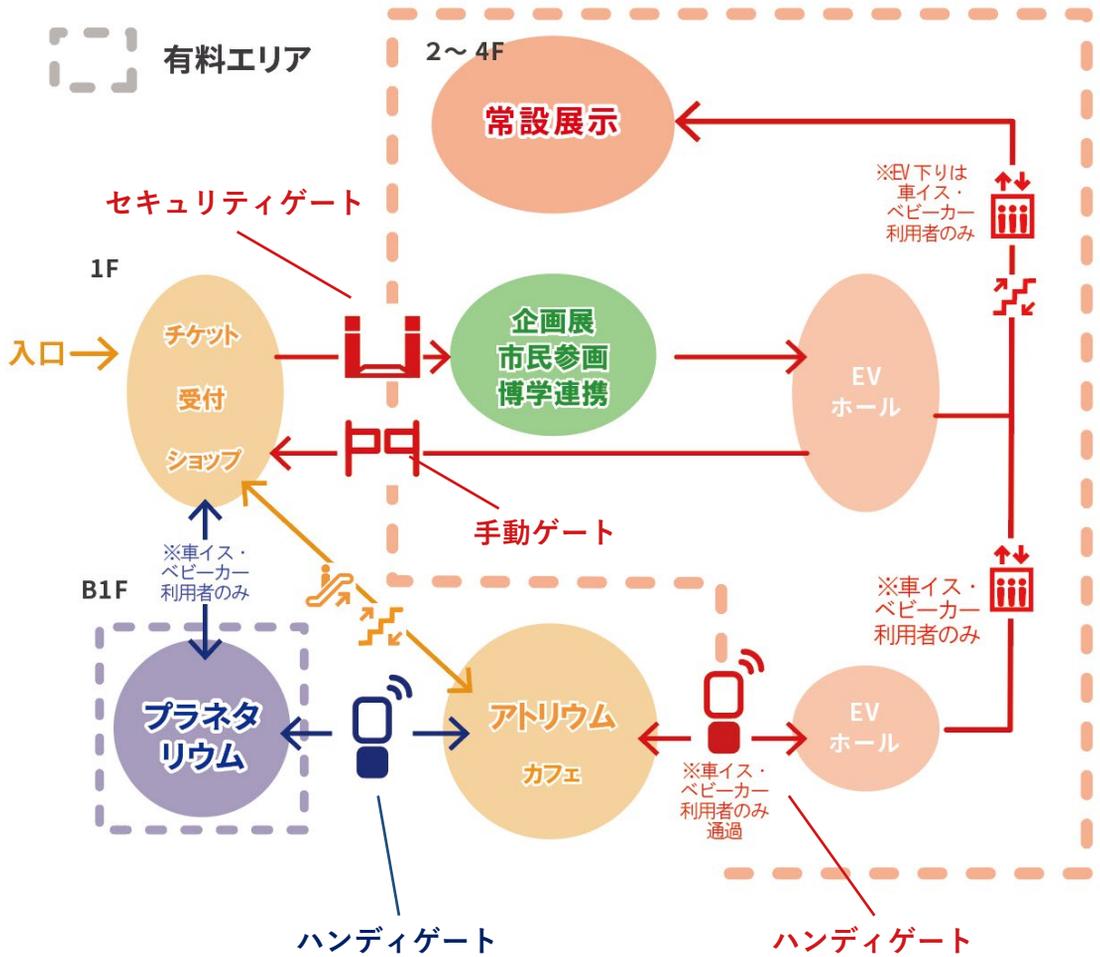
各階の動線計画

【プラン・動線の特徴】

- ・ 正面玄関を入った1階風除室から視認でき近接した券売機や受付カウンターで、チケット購入ができる。
- ・ 企画展・市民参画・博学連携スペースを1階に。チケット購入後にすぐに入れるため、目玉として打ち出しやすい。また、2～4階展示場観覧後の利用も選択できる。
- ・ 地下1階に、キッチンカータイプのカフェを設置。プラネタリウムの待機スペースや休憩にも活用。



チケットと動線の概念図



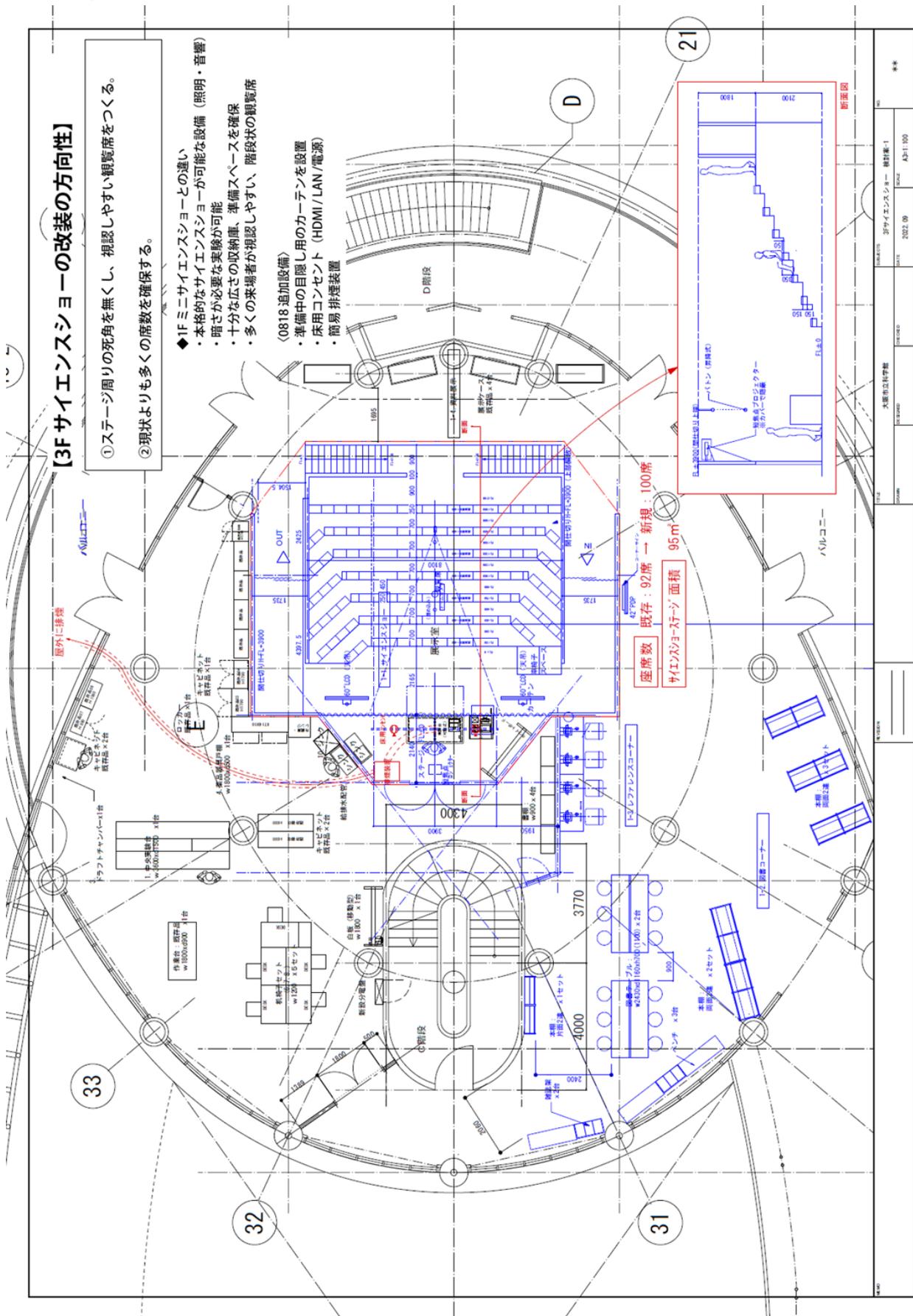
3階サイエンスショー

【3Fサイエンスショーの改装の方向性】

- ① ステージ周りの死角を無くし、視認しやすい観覧席をつくる。
- ② 現状よりも多くの席数を確保する。

- ◆IFミニサイエンスショーとの違い
- ・本格的なサイエンスショーが可能なお設備 (照明・音響)
 - ・暗さが必要な実験が可能
 - ・十分な広さの収納庫、準備スペースを確保
 - ・多くの来場者が視認しやすい、階段状の観覧席

- 〈0818追加設備〉
- ・準備中の目隠し用のカーテンを設置
 - ・床用コンセント (HDMI/LAN/電源)
 - ・簡易排煙装置



座席数 既存: 92席 → 新規: 100席
サイエンスショーゾーン 面積 95㎡

21

33

32

31

図名	3Fサイエンスショー 観覧席-1
縮尺	A3-1/100
作成	2022.08
更新	
備考	

2-6. VI計画

デザインコンセプト

大阪市立科学館のシンボルとしてふさわしいロゴマークと館名ロゴタイプ（文字列）をセットで定める。

デザインコンセプトは下記とする。

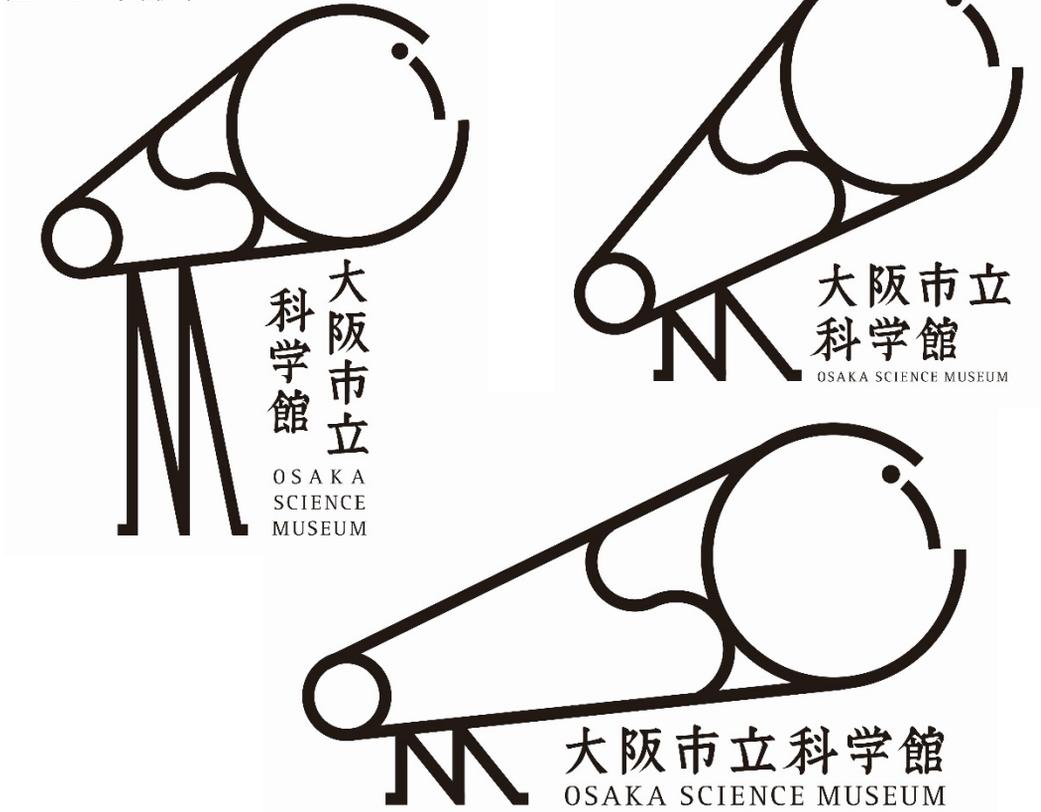
- 前身が日本初の科学館である「大阪市立電気科学館」であることなど、科学館としての伝統を感じられるものとする
- 宇宙・天文、物理、化学、気象、科学技術等、展示や活動で扱っているテーマ、つまり科学的探求の対象を想起できるものとする
- 科学の発展に不可欠な人間の探究心の象徴として望遠鏡をモチーフとし、広く現象を観察するという科学に対する基本的行動を表すものとする
- 館の英名である“Osaka Science Museum”の”O”、“Sci”、“M”をマークに取り込み、大阪市立科学館であることを主張できるようにする



基準案

VI 案

組み方・変形案

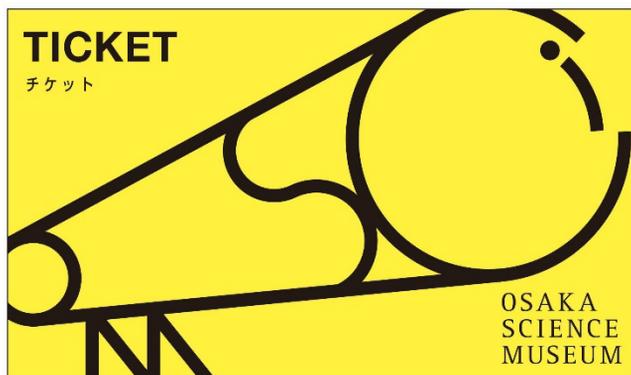


背景色バリエーション



VI 展開例

VIは、サイン、チケットをはじめ、名刺などのアプリケーション、ミュージアム・ショップのグッズ等に展開を計画していく。



チケット展開案



グッズ案/ペン



グッズ案/バッグ



グッズ案/Tシャツ

3.展示改装検討会

3-1.検討会について

はじめに

大阪市立科学館（以下「当館」という。）では、2021年度（令和3年度）に館内にて第4次展示改装に向けた構想を検討し、大阪市立科学館展示改装基本構想（以下「基本構想」という。）を策定した。2022年度（令和4年度）に大阪市立科学館展示改装基本計画（以下「基本計画」という。）を策定するにあたり、基本構想を基に外部有識者からの意見を聴取する検討会を2022年（令和4年）7月に設置した。これが、大阪市立科学館展示改装検討会である。

設置目的

本検討会は、展示物及び展示場の改装方針について専門的な意見を求めることを目的とし（大阪市立科学館展示改装検討会設置要綱（以下「設置要綱」という。）第1条）、主に基本計画及び当館展示改装後の運用に関することについて協議及び検討を行う（設置要綱第2条）。当館では、本検討会での意見を参考に基本計画を策定し、第4次展示改装事業及びその後の運用を推進する。

大阪市立科学館展示改装検討会委員

本検討会委員については、齋藤吉彦大阪市立科学館長のほか、科学に関する学識経験者、博物館関係者、その他博物館の運営に見識を有する者の中から表のとおり、地方独立行政法人大阪市博物館機構理事長が委嘱した（設置要綱第3条）。

なお、事務局は大阪市立科学館総務企画課が務め（設置要綱第8条）、委員長は第1回大阪市立科学館展示改装検討会において大阪公立大学教授石原秀樹氏が選ばれた（設置要綱第4条）。

会議の開催

本検討会は、検討会委員の任期である2023年（令和5年）3月31日（設置要綱第5条）までに4回開催し、1回あたり約3時間を協議のほか、事務局からの説明、施設見学等にあてた。

各会の内容は以下のとおりである。

(1) 第1回大阪市立科学館展示改装検討会

ア 日時 2022年7月15日（金） 14:00～17:30

イ 内容

- (ア) 委嘱状交付
- (イ) 出席者紹介
- (ウ) 検討会について（事務局説明）
- (エ) 委員長選出
- (オ) 協議事項
 - ・基本構想について
 - ・各フロア展開の方向性
- (カ) 展示場見学

(2) 第2回大阪市立科学館展示改装検討会

ア 日時 2022年10月6日（木） 14:00～17:10

イ 内容

- (ア) はじめに
展示改装の基本的考え方の確認（事務局説明）
- (イ) 協議事項
 - ・4階「宇宙とエネルギー」フロアの展示構成について
 - ・3階「身近に化学」フロアの展示構成について
 - ・3階「サイエンスプラザ」「リファレンスコーナー」について

(3) 第3回大阪市立科学館展示改装検討会

ア 日時 2022年12月7日（水） 14:30～17:30

イ 内容

- (ア) はじめに
展示改装スローガンの確認（事務局説明）
- (イ) 協議事項
 - ・2階「みんなでたのしむサイエンス！」フロアの展示構成について
 - ・1階「わくわくサイエンス」フロア並びに1階「エントランス」及び地階「アトリウム」の配置及び運用について

(4) 第4回大阪市立科学館展示改装検討会

ア 日時 2023年2月8日（水） 14:00～17:00

イ 内容

- (ア) はじめに
過去3回の検討会の振り返り（事務局説明）
- (イ) 協議事項
 - ・4階「宇宙とエネルギー」フロアの展示修正（案）について
 - ・3階「身近に化学」フロアの展示修正（案）について
 - ・展示改装イメージについて（事務局説明）
 - ・基本計画図書について

大阪市立科学館展示改装検討会委員名簿

検討会委員	学識経験者 要綱第3条 第2項 第1号	大阪公立大学特任教授 (南部陽一郎物理学研究所) 平成25年大阪市立科学館有識者会議委員 元(公財)大阪科学振興協会理事	石原 秀樹	宇宙物理
		和歌山大学教育学部教授 日本化学会近畿支部副支部長 日本化学会近畿支部化学教育協議会委員長	木村 憲喜	化学教育
		和歌山大学教育学部教授 日本天文学会 教育理事 科学教育研究協議会 日本地学教育学会「地学教育」元編集委員長 国際天文学連合 部門C 「天文教育・アウトリーチ・天文遺産」運営委員 日本保育学会 元大阪市学童保育連絡協議会会長 元大阪市中央区PTA協議会会長	富田 晃彦	科学教育
	博物館関係者 同第2号	Learning Innovation Network代表 関西学院大学 非常勤講師 日本ミュージアム・マネジメント学会 (JMMA) 理事 JMMAミッション・マネジメント研究部会 部会長	黒岩 啓子	博物館 経営 博物館 教育
		名古屋市科学館学芸課長	鈴木 雅夫	科学館 学芸員
	大阪市立 科学館長 同第3号	大阪市博物館機構 大阪市立科学館長・理学博士	齋藤 吉彦	科学館長
	その他 同第4号	大阪市立科学館サイエンスガイドリーダー 元大阪市立小学校長	谷坂 明代	ボラン ティア 展示案内
		大阪市立科学館親善大使 大阪市立科学館科学デモンストレーター 理学博士	吉岡亜紀子	ボラン ティア 国際交流

大阪市立科学館展示改装基本計画（概要版）

発行日 2023年 3月31日

編集・発行者 地方独立行政法人 大阪市博物館機構
大阪市立科学館

〒530-0005
大阪市北区中之島四丁目2番1号
Tel : 06-6444-5656

編集協力 株式会社 丹青社

